

第 3 章 健幸（けんこう）長寿のまち

まちづくりの目標	市民一人ひとりが、それぞれのおかれている状態の中で、心身の健康を実感しながら、地域の中で安心していきいきと暮らせるまちをめざします。
----------	--

第 1 節		健康づくり			市民が健康づくりに取り組むための支援や環境が充実している			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					705人	30.6%	447人	19.4%
関係所属		健康づくり支援課、こども家庭センター						
指標名		健康寿命の延伸 令和10年度までに男女ともに0.50年以上の延伸をめざす。						
単位	R5年度現状 (R4実績値)	R7年度実績 (R6実績値)	R8年度実績 (R7実績値)	R9年度実績 (R8実績値)	R10年度実績 (R9実績値)	R10年度目標 (R9実績値)	進捗状況	
年	男性18.60年 (83.60歳) 女性21.29年 (86.29歳)	男性18.33年 (83.33歳) 女性21.14年 (86.14歳)				男性19.10年 (84.10歳) 女性21.79年 (86.79歳)	計画どおりでない	

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
3-1-1 主体的な健康づくりの推進	歩/日・人	7,231	6,185	8,000	計画どおりでない
トコトコ健幸マイレージ事業の参加者の1日平均歩数 令和10年度までに1人1日平均歩数8,000歩をめざす。					
3-1-2 母子保健事業の充実	%	92.8	95.4	95.0	計画どおり
この地域で子育てをしたいと思う親の割合 令和10年度までに95.0%をめざす。					
3-1-3 食育の推進	人	343	384	390	計画どおり
食育に関する料理教室や講習会の参加者数 令和10年度までに390人をめざす。					
3-1-4 歯科口腔（こうくう）の健康保持・増進	%	95.0	95.9	現状値以上	計画どおり
むし歯のない3歳児の割合 毎年度、現状値以上をめざす。					

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

○トコトコ健幸マイレージ事業は、埼玉県が実施するウォーキングアプリ「ALK00（あるこう）」を活用した「コバトンALK00マイレージ事業」に参入し実施している。令和6年度に引き続き本市独自のポイント制度及び景品を用意したほか、10月から12月にウォーキング促進強化月間を設け市民の出歩きを促進した。参加者の募集については、広報への掲載やチラシ配布・ポスター掲示等に加え、高齢者支援課と連携したスマートフォンアプリの講習会を実施し、「ALK00（あるこう）」アプリの登録及び操作説明を行うなど、市民が生涯を通じて楽しみながら継続できる健康づくりを促進している。指標となる参加者の1日平均歩数は、健康増進に効果の高い歩数が目標値であり、年代や健康状態によっては厳しい場合もあることから、目標達成に至っていない。

○母子保健事業では、こどもの健やかな成長を見守りはぐくむ地域づくりを目指し、妊娠期から出産、子育て期において切れ目ない支援を実施した。

○食育に関する事業では、食育に関心のある市民を増やせるよう、生活習慣病の予防と改善に関する正しい食生活や野菜摂取の大切さを伝える講習会や料理教室を開催した。

○乳幼児健康診査等において「むし歯はないが、むし歯リスクが高い者」に対し、個別歯科相談、二次指導を行った。また、3歳児に対し市内歯科医療機関においてフッ化物塗布を実施し、かかりつけ歯科医を持つことにつなげた。

今後の方向性・課題

○健康寿命の延伸に向け、疾病予防や健康増進の観点から、市民の健康意識の向上や行動変容を促すとともに、トコトコ健幸マイレージ事業など市民が楽しみながら気軽に身体を動かすことができる取り組みを推進する。生活習慣病予防に有効とされる平均歩数を達成できていないことや、健康無関心層への働きかけに課題がある。歩数が減少傾向にある猛暑の時期を避け、春季や秋季の出歩きに適した時期に歩行を促すなど、引き続き本市の健康増進事業の中心的な取り組みであるトコトコ健幸マイレージ事業の参加者及び平均歩数の増加に向け、事業の周知及び情報発信に努める。

○母子保健事業では、引き続き、妊娠期から出産、子育て期において切れ目ない支援を行い、こどもの健やかな成長を見守りはぐくむ地域づくりを目指す。

○市民一人ひとりが食の大切さを認識し、生涯にわたり健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、関係団体等と連携して、地域全体で食育推進の取り組みを実施していく。

○歯科口腔の健康保持・増進においても、妊娠期から出産、子育て期のあらゆる機会をとらえて、むし歯予防や歯科口腔衛生の向上に向けて取り組んでいく。

評価日	R8.7.30	記入者職氏名	健康推進部次長 糟谷 苗美 こども未来部次長 松井 優子
-----	---------	--------	---------------------------------

第 2 節		早期発見・疾病予防・自殺予防		検診や予防接種など、病気を発見・予防する取組が充実している			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				925人	40.1%	492人	21.3%
関係所属	健康管理課、健康づくり支援課						
指標名	大腸がん検診の受診率 令和10年度までに9.0%以上をめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	8.1	6.8				9.0	計画どおりでない

事業目標の達成状況		単位	R5年度現状	R7年度実績	R10年度目標	進捗状況
3-2-1 予防接種・感染症の情報提供	二種混合予防接種の接種率 令和10年度までに88.0%をめざす。	%	84.0	85.8	88.0	計画どおり
3-2-2 生活習慣病予防の普及啓発						
予約制健康相談（健康・栄養・歯科・リハビリ）の相談者数 令和10年度までに150人をめざす。	がん検診の受診者数 令和10年度までに4,600人の増加をめざす。	人	116	143	150	計画どおり
3-2-3 がん検診の普及啓発						
3-2-4 精神疾患対策と自殺防止対策	こころの健康講座等の参加者数 令和10年度までに95人の増加をめざす。	人	43,400	43,316	48,000	計画どおりでない
3-2-4 精神疾患対策と自殺防止対策						
こころの健康講座等の参加者数 令和10年度までに95人の増加をめざす。			3,505	2,964	3,600	計画どおりでない

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

○予防接種事業は、法令に基づいて実施し、小児や高齢者の優先順位の高い対象者に対しては個別に通知するとともに、未接種者への勧奨等感染症のまん延や重症化の予防に努めた。また、法令改正に伴い、新たに高齢者向けの带状疱疹予防接種事業を開始した。

○予約制健康相談では、個々の生活に合わせた具体的な助言を行うことにより、健康づくりに向けた行動ができる市民を増やせるよう、保健師、栄養士、歯科衛生士、理学療法士等の専門職が連携して生活習慣病予防に関する相談を行った。

○がん検診では、受診対象者のうち、国民健康保険加入者、過去に受診履歴がある者、節目年齢の者等の優先順位の高い層に対し、年度当初には一斉に個別通知を行った。また、集団検診の受診希望者が、自身の都合に合わせて受診日を選択し予約ができるよう予約システムを運用し、併せて新たに電話による受付対応窓口を設置する等市民の利便性向上に努めた。受診率向上における課題として、受診の利点の周知が不十分であることや、特定健診との同時実施等受診行動を促す取り組みがまだ十分な効果に繋がっていないと考えられる。

○こころの健康講座は7回実施して406人が参加、所沢こころの美術展は開催5日間で2,558人の来場者があり、メンタルヘルスに関するセミナー動画を12回配信したところ視聴件数が2,381件であった。これらの取り組みにより、市民の精神障害や心の健康への関心や理解を広めるよう努めているものの、周知方法等の更なる工夫が必要である。

今後の方向性・課題

○市民が予防接種の意義やリスクを適切に理解し、希望する者が機会を逃すことなく接種できるよう、丁寧な周知に努める。

○予約制健康相談は、認知度が十分ではないことが課題であるため、より多くの市民が活用できるよう、様々な機会を捉えてより効果的な周知と利用促進に努める。

○がん検診では、受診券の一斉送付やウェブサイトによる集団検診予約システム及び電話による予約受付を継続するとともに、特定健診や複数のがん検診を同時に受診できる機会を確保する等市民にとって受診しやすい環境の整備を進める。受診率向上に向けてがん検診の意義を広められるよう関係機関や企業等との連携を深め、更なる周知啓発に取り組んでいく。

○こころの健康講座の内容の工夫やセミナー動画の配信の活用等により、メンタルヘルスに関する知識の更なる普及啓発を行うとともに、所沢こころの美術展による当事者の作品展示等精神障害に対する関心や理解を促す取り組みを充実していく。

評価日

R8.7.30

記入者職氏名

健康推進部次長 糟谷 苗美

第 3 節		地域医療			体調を崩したときに身近に受診できる医療機関がある			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					1,231人	53.4%	715人	31.0%
関係所属	保健医療課、市民医療センター事務部総務課							
指標名	所沢地区病院群輪番制病院の実施 毎年度、現状維持をめざす。							
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
-	確保	実施				現状維持	計画どおり	

事業目標の達成状況		単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
3-3-1 救急医療の充実	在宅当番医制の実施状況 毎年度、現状維持をめざす。	-	実施	実施	現状維持	計画どおり
3-3-1 救急医療の充実						
3-3-1 救急医療の充実	休日緊急歯科診療の実施状況 毎年度、現状維持をめざす。	-	実施	実施	現状維持	計画どおり
3-3-1 救急医療の充実						
3-3-2 地域医療の充実	感染症に関する情報発信 毎年度、52回（週1回）以上の情報発信をめざす。	回	随時	56	52	計画どおり
3-3-2 地域医療の充実						
3-3-3 所沢市市民医療センターの運営	地域包括ケア病床の利用率 令和10年度までに90.0%をめざす。	%	74.4	75.4	90.0	計画どおりでない
3-3-3 所沢市市民医療センターの運営						

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

- 在宅当番医制事業を実施し、所沢市医師会との連携により、祝休日及び年末年始の初期救急医療体制を整備することができた。また、所沢地区病院群輪番制事業を実施し、参加医療機関の協力により、輪番制による二次救急医療体制を整備することができた。
- 所沢市歯科診療所あおぞらでは、休日において緊急に歯科診療を必要とする患者に対し、休日緊急歯科診療を実施した。
- 感染症に関する情報発信として、流行傾向にある感染症について、ホームページで注意喚起を行った。また、狭山保健所と連携し、感染者が増加傾向にある性感染症に関するホームページコンテンツの公開、二十歳のついででのチラシ配架を行った。
- 市民医療センターの急性期病床は、外来からの入院のほか、他の医療機関や老人介護施設、地域包括支援センター等からの紹介による入院など、積極的に入院患者の受け入れを行ったものの、入院患者数は令和5年度に比べ0.64%下回った。（全体の入院患者数：（R5）11,941人→（R7）11,865人）しかしながら、在宅復帰へ向けた病床である地域包括ケア病床の入院患者数は、目標値に達することができなかったものの、効率的なベッドコントロールを行った結果、令和5年度に比べ6.46%上回る結果となった。（地ケア病床の入院患者数：（R5）3,359人→（R7）3,576人）
- 市民医療センターにおける地域包括ケア病床の目標値を達成するためには、急性期病床を含めた全体の入院患者数を増加させる必要があるが、全体の入院患者数は過去3年間、ほぼ横ばいで推移しているため、地ケア病床の利用率の大幅な上昇に繋がらず、目標値を達成することができなかった。

今後の方向性・課題

- 県や保健所、所沢市医師会、所沢市歯科医師会、協力医療機関等と連携し、救急医療体制の維持や地域医療の充実に努める。
- 所沢市歯科診療所あおぞらでは、利用者アンケートや関係団体等の意見を参考にしながら、質の高い歯科診療の提供に努める。また、所沢市歯科医師会と協力し、パンフレット配布やHPでの情報発信、介護事業者への周知啓発に努める。
- 新型コロナウイルス感染症の収束以降、複数の感染症が、統計開始以降感染者数最多を記録している。そのため、感染症発生動向調査を参考に感染症の流行状況をホームページで発信するなど、平時より効果的な情報発信、注意喚起を行っていく。
- 市民医療センターでは、市内医療機関等との連携体制を継続し、小児初期救急医療体制の維持と安定的な運営に引き続き努めるとともに、急性期を脱し病状が安定した患者の在宅復帰に向けて、令和8年度から土曜日や年末年始等にリハビリ訓練を実施するなど、リハビリテーションの更なる充実に努める。
- 市民医療センターにおいては近隣の医療機関等との連携を強化し、積極的に入院を受け入れ、病床利用率の向上を図る。
- 市民医療センター地域連携室の活動等を通じ、地域の医療・介護・福祉との連携を深め、患者の状況等に合わせ適切な受け入れ及び転院等に繋げることで病床利用率の向上を図る。

評価日	R8.7.30	記入者職氏名	健康推進部次長 近藤 真希 市民医療センター事務部総務課長 粕谷 憲之
-----	---------	--------	--

第 4 節		医療保険・医療情報		市から医療に関して必要な保険サービスが提供されている			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				728人	31.6%	537人	23.3%
関係所属	国民健康保険課						
指標名	特定健康診査の受診率 令和10年度までに60.0%以上をめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	38.4	未確定 (確定は10月)				60.0	計画どおりでない

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
3-4-1 保険税水準の統一化及び保険給付の適正化	件	30	35	現状値以上	計画どおり
第三者行為求償届出件数 毎年度、現状値以上をめざす。					
3-4-2 特定健康診査等の充実	%	13.2	13.4	14.0	計画どおり
30歳代の被保険者の健康診査受診率 令和10年度までに14.0%をめざす。					
3-4-3 生活習慣病重症化予防の対策	人	32	22	現状値以下	計画以上
人工透析の新規移行者数 毎年度、現状値以下をめざす。					
3-4-4 重複・多剤服薬者に対する支援	人	14	26	30	計画どおり
お薬相談会の参加者数 毎年度、30人以上をめざす。					
3-4-5 後期高齢者医療制度の充実	%	35.0	35.5	40.0	計画どおり
後期高齢者健康診査の受診率 令和10年度までに40.0%をめざす。					

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

○特定健康診査の受診率向上のため、がん検診との合同健診の実施や、通院中患者に対し医療従事者から受診案内するための資材を各医療機関に配布したり、受診勧奨はがきの送付等に取り組んだ。受診率は、R7受診率の途中経過を分析すると、R6と同水準もしくは若干下回ることが予想されることから、がん検診との合同健診や、新たな受診勧奨はがきの送付等、昨年度から始めた取り組みについて、改善を加えながら継続して実施することにより、受診率の回復に努める。

○第三者行為求償案件の発見に資する取り組みとして、埼玉県国保連合会が作成する「第三者行為求償対象候補一覧表」を活用し、第三者データと突合することにより第三者行為該当レセプトを抽出し、対象者に届出励行の通知を行った。

○医療費適正化のため、県の「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」に参加し、保健指導の参加者を増やす取り組み（参加勧奨はがきの発送）を行った。

○ジェネリック医薬品の数量シェア向上のため、医師会・薬剤師会・歯科医師会への協力依頼（啓発ポスター・利用希望シールの発送）を行った。

○後期高齢者の健康保持・増進のため、健康診査を実施した。対象者に受診券を個別送付したほか、医療機関等にポスターを掲示した。また、地域ケア会議、民生委員、シルバー人材センター等に健診の案内を配布した。

○お薬相談会参加者数については、参加勧奨はがきの送付を実施したものの目標には届かなかった。事業全体の日程的な制約もあり、相談会の開催日が高齢者が参加しにくい猛暑の中で実施されることの影響も考えられる。

今後の方向性・課題

○特定健康診査等の受診率向上に向け、未受診者勧奨（勧奨はがきの発送、商工会議所へのポスター掲示協力依頼、自治会回覧等）、がん検診との合同健診に取り組む。特に、勧奨はがきの発送については、昨年度よりも規模を拡大し実施していく。

○30歳代健診の受診が、特定健診の受診へとつながるよう、勧奨はがきや受診券の発送等、30歳代健診の受診勧奨にも取り組んでいく。

評価日	R8.7.30	記入者職氏名	健康推進部次長 近藤 真希
-----	---------	--------	---------------

第 5 節		スポーツ推進			スポーツ活動やスポーツに触れる機会が充実している			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度					満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人					446人	19.3%	269人	11.7%
関係所属	スポーツ振興課							
指標名	スポーツを楽しんでいる市民の割合 令和10年度までに50.0%以上をめざす。							
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況	
%	45.4	41.6				50.0	計画どおりでない	

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
3-5-1 スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進 週1回以上スポーツを実施する成人の割合の向上 毎年度、現状値以上をめざす。	%	51.9	49.2	現状値以上	計画どおりでない
3-5-2 競技会場の確保や交流機会の充実 直近1年間でスポーツ観戦に行った人の割合 毎年度、50.0%以上をめざす。	%	-	25.4	50	計画どおりでない
3-5-3 スポーツ活動の支援と環境整備 スポーツ・レクリエーション施設利用者数の増加 毎年度、現状値以上をめざす。	人	801,114	814,579	現状値以上	計画以上
3-5-4 スポーツに触れる機会の充実 SNS等によるスポーツ情報の発信 毎年度、現状値以上をめざす。	回数	432	292	現状値以上	計画どおりでない

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

- 「所沢スイミングフェスティバル」を、早稲田大学及び市内水泳事業者と連携して開催し、水泳を通じて市民の健康増進及びスポーツ振興を図った。
- ミラノコルティナ2026パラリンピック競技大会では、所沢市ゆかりのアスリートが活躍をした。市民との交流の場として壮行会を開催するなど、ゆかりのアスリートの活躍を応援することで市民のスポーツへの関心を高めるとともにスポーツの振興を図った。
- 第36回所沢シティマラソン大会は、市政施行75周年の記念大会として開催した。コロナ禍以降、最多となる5,545人のエントリーがあった。
- 「週1回以上スポーツを実施する成人の割合」については、コロナ5類移行後には各種大会も開催されるようになり利用者数は増加傾向にあるが、コロナ禍前の状態にまでは回復しておらず、目標は未達成となった。
- 「直近1年でスポーツ観戦に行った人の割合」については、ゴールボール日本代表をはじめとした「所沢市ゆかりのアスリート」の活躍や活動状況を広報することで、多くのメディアに取り上げられるなど一定の認知度上昇はあったが、市民全体のスポーツ観戦意欲の向上には至っておらず目標は未達成となった。
- 「SNS等によるスポーツ情報の発信」については、ところざわほっとメールの受信登録者数の減少傾向などもあり、目標値には届いていないが、LINE登録者数は伸びており、情報収集方法の変化も要因と考えられる。

今後の方向性・課題

- 「第3次所沢市スポーツ推進計画」の基本理念である「市民の誰もが、スポーツにふれ、スポーツで笑顔がふれるまち」に向けて、市民の誰もが気軽に楽しめるユニバーサルスポーツの体験会や健康体操教室、親子で楽しむスポーツイベント等、ライフステージに応じてスポーツを楽しむ環境づくりを推進する。
- 本市ゆかりのアスリートの応援を通して「見る」スポーツを楽しんでいる市民を増やす。
- スポーツを実施する成人の目標達成に向けては、引き続き、親子スポーツフェアや体操教室などの開催を通じて、スポーツに触れ合う機会を提供し、市民の運動意欲の向上に取り組んでいく。
- スポーツ観戦に行った人の目標達成に向けては、SNSや市役所内の掲示物等を使って市民が関心を持つスポーツの情報等を紹介することで、競技への認知度や観戦意欲をさらに高めていく。
- スポーツや各種大会の情報発信をホームページ、ほっとメール、LINEに加え、XやInstagramなど様々な媒体を通じて積極的に行うことで、年代を問わずスポーツ情報に触れる機会を創出し、スポーツに親しむきっかけづくりを行う。

評価日

R8.7.30

記入者職氏名

教育総務部次長 稲田 里織